

{ 2018年7月登録決定 }



世界文化遺産

長崎と天草地方の
潜伏キリシタン関連遺産

1

は ら じ ょ う あ と
原城跡
Remains of Hara Castle

ガイドマップ



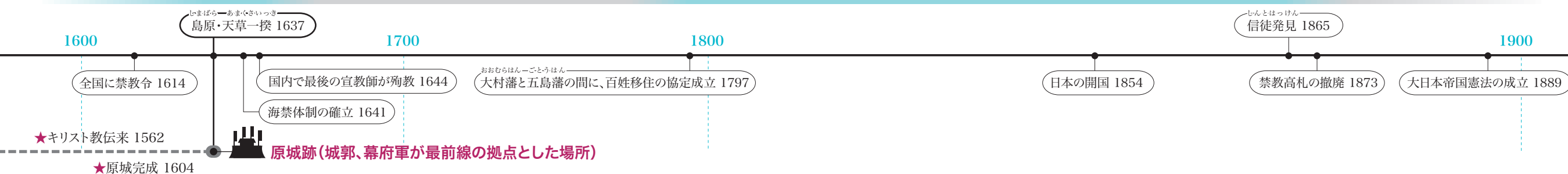
| 原城跡 | の価値

I 宣教師不在と キリシタン「潜伏」のきっかけ

II 潜伏キリシタンが信仰を 実践するための試み

III 潜伏キリシタンが共同体を 維持するための試み

IV 宣教師との接触による 転機と「潜伏」の終わり



「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」全体の価値における位置づけ

- ◎「原城跡」は、キリシタンが何をきっかけとして「潜伏」することになったのかを示す構成資産です。
- ◎キリシタンが「潜伏」し、独自に信仰を続ける方法を模索することを余儀なくされたきっかけとなる「島原・天草一揆」の主戦場跡です。

《基本情報》

文化財の名称	原城跡
種別	史跡
指定年	1938年
所在地	南島原市南有馬町

資産内の 見学マナー

資産内ではマナーを守って散策してください。

- 道路を歩く場合は、広がらず、必ず路側帯を歩いてください。
- 本丸のエリア内での喫煙はお止めください。また、全てのエリアにおける歩きながらの喫煙やたばこのポイ捨てなどもお止めください。
- ゴミ箱を設置しておりませんので、ゴミはお持ち帰りください。
- トイレは所定の場所をお願いします。

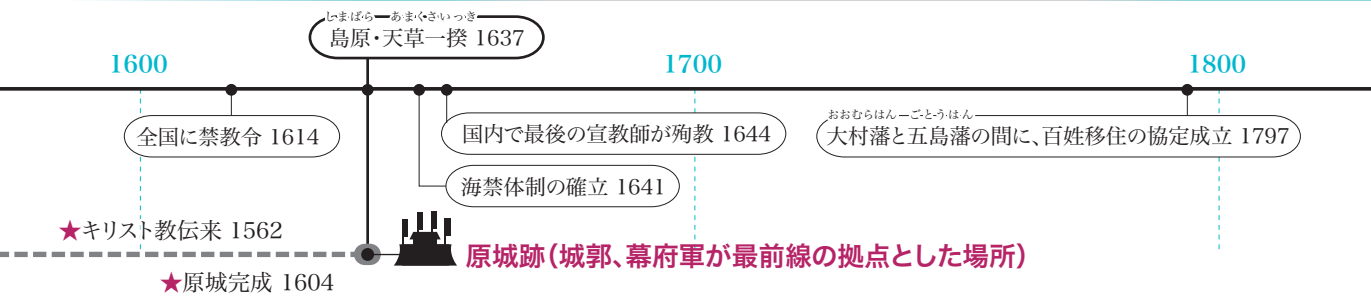
歴 史

- ◎原城は、キリシタン大名の有馬氏が1604年に完成させました。
- ◎その後、有馬氏は他所へ移り、新たな領主である松倉氏は別の場所に城を築いたために、1618年に原城は使われなくなりました。
- ◎有馬地域や対岸の天草地方では、キリシタン大名が去り、禁教期に入っても多くの領民はひそかに信仰を続けていました。
- ◎1637年、松倉氏の圧政や飢饉をきっかけに、有馬地域と天草地方の潜伏キリシタンが蜂起し、合流して原城跡に立てこもりました。
- ◎この出来事は「島原・天草一揆」と呼ばれています。
- ◎2万数千人の一揆勢は、原城跡を包囲した幕府軍の攻撃により、ほぼ全員が殺されて終結し、原城跡は二度と使われないように石垣などが破壊されました。
- ◎近年の発掘調査により、一揆勢が立てこもった城内から、複数の仮設小屋の跡やメダイ、十字架などの信心具と共におびただしい人骨がみつかっています。
- ◎これらは、有馬地域と天草地方の潜伏キリシタンが、禁教期に入っても組織的に信仰を維持していたことを示しています。
- ◎この一揆によってキリスト教を脅威と見なした幕府は、1639年に宣教師の潜入の可能性が高いポルトガル船の寄港を禁止し、海禁体制(いわゆる鎖国)を確立しました。そして、1644年には、国内で最後の宣教師が殉教したため、以後残された潜伏キリシタンは、自分たちで信仰を続けることを余儀なくされました。

| 原城跡 | の価値

I 宣教師不在と キリシタン「潜伏」のきっかけ

II 潜伏キリシタンが信仰を 実践するための試み



「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」全体の価値における位置づけ

- ◎「原城跡」は、キリシタンが何をきっかけとして「潜伏」することになったのかを示す構成資産です。
- ◎キリシタンが「潜伏」し、独自に信仰を続ける方法を模索することを余儀なくされたきっかけとなる「島原・天草一揆」の主戦場跡です。

《基本情報》

文化財の名称	原城跡
種別	史跡
指定年	1938年
所在地	南島原市南有馬町

資産内の 見学マナー

資産内ではマナーを守って散策してください。

- 道路を歩く場合は、広がらず、必ず路側帯を歩いてください。
- 本丸のエリア内での喫煙はお止めください。また、全てのエリアにおける歩きながらの喫煙やたばこのポイ捨てなどもお止めください。
- ゴミ箱を設置しておりませんので、ゴミはお持ち帰りください。
- トイレは所定の場所をお願いします。

Ⅲ 潜伏キリシタンが共同体を維持するための試み

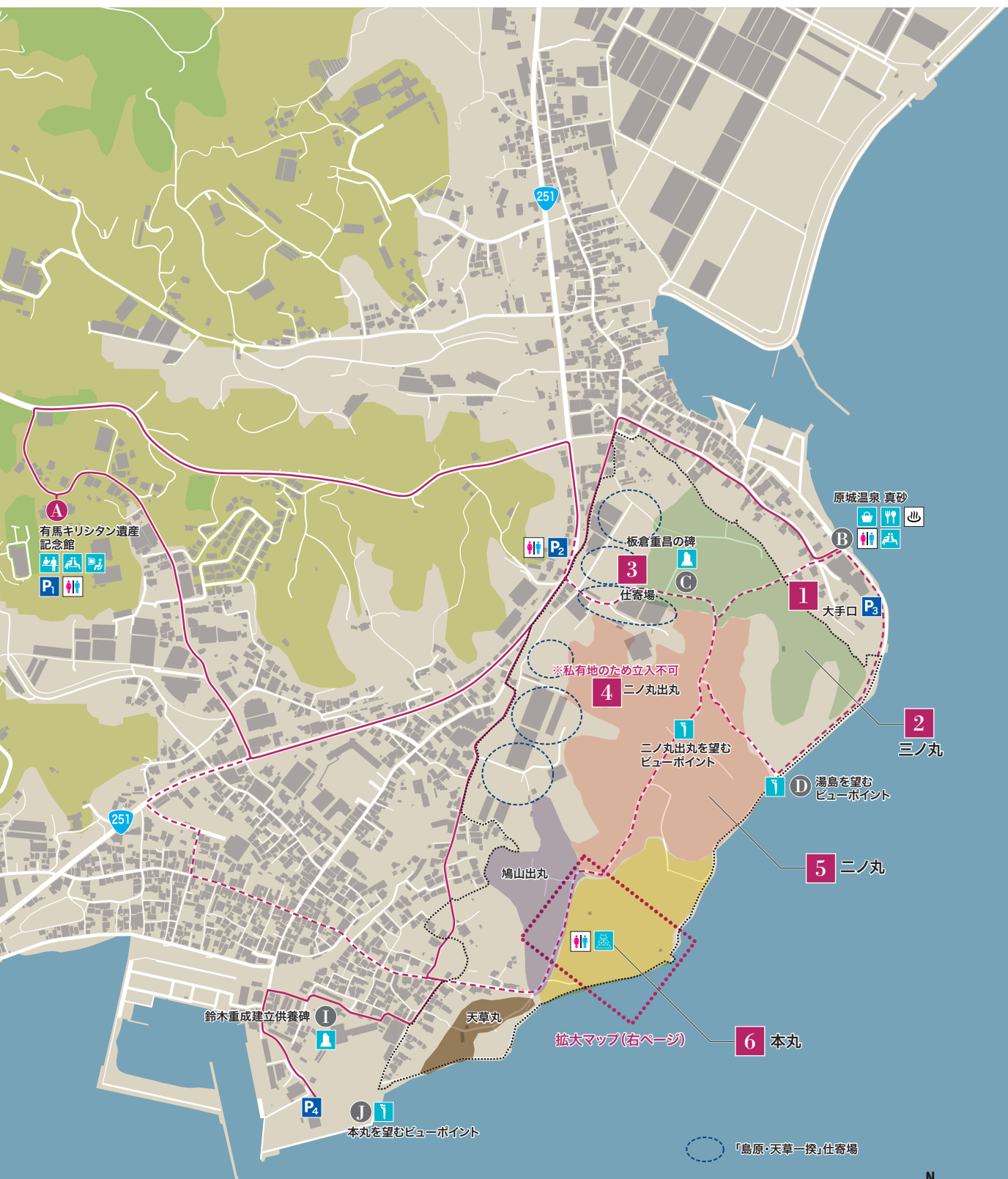
Ⅳ 宣教師との接触による転機と「潜伏」の終わり



歴史

- ◎原城は、キリシタン大名の^{ありま}有馬氏が1604年に完成させました。
- ◎その後、有馬氏は他所へ移り、新たな領主である^{まつくら}松倉氏は別の場所に城を築いたために、1618年に原城は使われなくなりました。
- ◎有馬地域や対岸の天草地方では、キリシタン大名が去り、禁教期に入っても多くの領民はひそかに信仰を続けていました。
- ◎1637年、松倉氏の圧政や飢饉をきっかけに、有馬地域と天草地方の潜伏キリシタンが蜂起し、合流して原城跡に立てこまりました。
- ◎この出来事は「^{しまばら}島原・^{あまくさいっき}天草一揆」と呼ばれています。
- ◎2万数千人の一揆勢は、原城跡を包囲した幕府軍の攻撃により、ほぼ全員が殺されて終結し、原城跡は二度と使われないように石垣などが破壊されました。
- ◎近年の発掘調査により、一揆勢が立てこもった城内から、複数の仮設小屋の跡やメダイ、十字架などの信心具と共におびただしい人骨がみつかっています。
- ◎これらは、有馬地域と天草地方の潜伏キリシタンが、禁教期に入っても組織的に信仰を維持していたことを示しています。
- ◎この一揆によってキリスト教を脅威と見なした幕府は、1639年に宣教師の潜入の可能性が高いポルトガル船の寄港を禁止し、^{きこく}海禁体制(いわゆる鎖国)を確立しました。そして、1644年には、国内で最後の宣教師が殉教したため、以後残された潜伏キリシタンは、自分たちで信仰を続けることを余儀なくされました。

| 原城跡 | の広域マップ

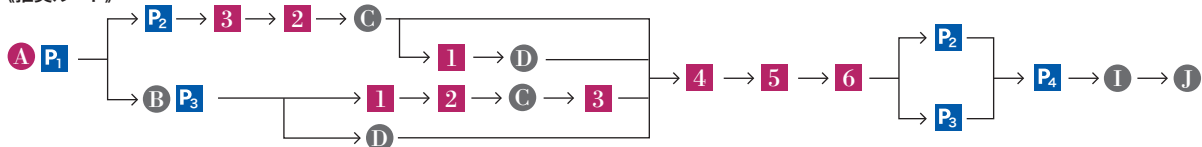


| 原城跡 | の拡大マップ

6 本丸



《推奨ルート》



- | | |
|-------------------|------------|
| 構成資産範囲 | 休憩所 |
| ----- 徒歩で移動 | 展示 |
| ———— 徒歩または自動車等で移動 | ショップ |
| 0 重要ポイント | 飲食 |
| A 情報発信拠点施設 | 温泉施設 |
| A その他のポイント | 城の建物跡 |
| P 駐車場 | ビューポイント |
| トイレ | 墓地、墓碑 |
| ガイド・案内所 | 碑(モニュメント)等 |

| 原城跡 | の重要ポイント案内

1

おおてぐち
大手口



肥前嶋原合戦図(名古屋市博物館蓬左文庫所蔵)



①

大手口は、原城の入口だった場所です。発掘調査により、小石を敷き詰めた通路の跡が確認されています。また、銃弾や人骨なども出土しており、「島原・天草一揆」の際には、ここでも戦闘が行なわれたことがわかっています。

2

さんのまる
三ノ丸



肥前国高来郡有馬浦原之城図(長崎歴史文化博物館所蔵)



①

三ノ丸は、原城跡の北側に位置します。一揆の際には、布津村や堂崎村の百姓など3,500人が守りを固めたという記録が残されています。この場所には、一揆を鎮圧するために派遣され、原城で戦死した幕府軍の上使である板倉重昌の碑②があります。

3 しよせば 仕寄場



仕寄場は、幕府軍が原城に攻め入るために築いた最前線の陣地です。北側から、細川氏、立花氏、松倉氏、有馬氏、鍋島氏、寺澤氏及び黒田氏の仕寄が配置されていたことが、史料により確認されています。

4 にのまるでまる ニノ丸出丸

※私有地のためビューポイントから見学してください。



島原の乱図巻(南蛮文化館所蔵)



①

ニノ丸出丸は、一揆勢が守った原城の西側に突き出した高台で、その下の低地の幕府軍と対峙した戦いの最前線でした。低地には幕府軍によって防御用の柵などが築かれていました。幕府軍の最後の総攻撃の際には、この付近から城内に攻め入りました。

5 にのまる ニノ丸



古戦古城之図(国立公文書館所蔵)



①

ニノ丸は、本丸⁶と三ノ丸²の間に位置し、原城の中では最も広い郭です。一揆の際には、口之津村や加津佐村、三會村の百姓など5,700人が守りを固め、彼らの住居が密集して建てられていたとの記録が残されています。

6 ほんまる 本丸



本丸は、原城跡のもっとも重要な場所であり、16世紀末頃に日本の城郭で本格的に導入され始めた石垣で全体を囲まれていました。一揆鎮圧後、幕府軍から城の破壊命令が出されたという記録があり、発掘調査では、石垣の破壊などの痕跡などが多数確認されています。

7 ほんまるせいもんあと 本丸正門跡

※人骨や信心具の出土状況は有馬キリシタン遺産記念館 **A** にレプリカを展示しています。



①



発掘調査で確認された人骨（発掘調査時の写真）

本丸正門は、石垣で囲まれた本丸へ入るための最初の門です。発掘調査により、破壊された石垣の下から成人男性のほか女性や子どもの多数の人骨が出土しており、百姓たちが家族単位で組織的に一揆に参加していたことがわかります。

8 うずみもんあと 埋門跡



①

埋門は、本丸に向かう2番目の門です。一揆後、徹底的に破壊されました。その破壊の工程が理解できるよう、3段階に分けて整備しています。

1段階 ⇒ 石垣の大きな石を落とした状況

2段階 ⇒ 大きな石を支えていた裏の小石を落とした状況

3段階 ⇒ 周囲の土で埋めた状況

9 いっきぜい かせつ はんちかしき こや あと 一揆勢の仮設(半地下式)小屋の跡



半地下式の小屋跡(発掘調査時の写真)



① 現在の状況



半地下式の小屋が描かれた絵図(「島原陣図屏風」、朝倉市秋月博物館所蔵)

発掘調査により、本丸西側の石垣下で発見された遺構です。一揆勢が地面を掘り込んでつくった急ごしらえの住居跡で、木炭や人骨、信心具も出土しています。「島原陣図屏風」に竪穴建物のような半地下式の小屋が描かれており、これを裏付けるものと考えられます。

10 ほんまるもんあと 本丸門跡



①

本丸門は、本丸に通じる最後の門です。一揆の際には指導者の天草四郎が居を構えたとの記録も残されています。本丸の周囲には、16世紀末頃に本格的に導入が始められる石垣が使用されており、発掘調査でも石垣上部などの破壊の状況が確認されています。

11 やぐらだいあと 櫓台跡



①

本丸には見張り用の3階建ての櫓台があったことが、一揆の様子が描かれた古い絵図で確認できます。発掘調査により、本丸南側では方形に石垣が飛び出した部分が発見され、この場所が櫓台の跡と考えられます。

12 れいはいどうあとふきん 礼拝堂跡付近



「十」の字が描かれた建物（「原城攻囲図」、東京大学史料編纂所蔵）



本丸には、一揆の際に礼拝堂が建てられ、キリシタンの教えが説かれていたという記録が残されています。発掘調査により、北側の広場から建物の痕跡が確認され、メダイや十字架などの信心具も発見されました。幕府軍の徹底的な破壊で詳しい場所は特定できませんが、この付近に礼拝堂があったとされます。



発掘調査で出土した信心具
(メダイと十字架、有馬キリシタン遺産記念館所蔵)



①

鉄砲玉の原料で自作した十字架

13 いしがきはきやくじょうきょう 石垣破却状況



①

この場所は、本丸の北側に位置します。発掘調査により、幕府軍が破壊した石垣の痕跡が確認されています。石垣の破壊状況を視覚的に理解できるよう、破壊された痕跡をそのままの状態で展示しています。

過去と現在のエリア比較

過去



「原城攻囲図」、東京大学史料編纂所蔵

現在



現在の原城跡

| 原城跡 | のその他のポイント案内

A 有馬キリシタン遺産記念館



①



①

- 所在地／南島原市南有馬町乙1395 Tel: 0957-85-3217
- 営業時間／9:00～18:00
- 休館日／毎週木曜日、12月29日～1月3日
- 入場料金／
 - 個人：一般(300円)、高校生(200円)、小・中学生(150円)
 - 団体(20人以上)：一般(250円)、高校生(150円)、小・中学生(100円)
- ▼身体障害者手帳などをお持ちの場合
 - 個人：一般(150円)、高校生(100円)、小・中学生(70円)
 - 団体(20人以上)：一般(120円)、高校生(70円)、小・中学生(50円)

日野江城跡と原城跡の歴史ストーリーを発信しています。展示は、キリシタン大名有馬氏の栄光と天正遣欧使節を育んだキリシタン史の華やかな「光」と、キリシタン弾圧や「島原・天草一揆」などの「影」の2つの物語で構成しています。また、日野江城跡から発掘された中国の陶磁器をはじめ、原城跡出土の信心具や人骨のレプリカなども展示しています。

B 原城温泉 真砂



①

原城跡を散策する場合は、こちらに駐車してください。館内には南島原の特産品などを販売するショップのほか、雲仙や天草が一望できる大浴場、レストランなどがあります。

- 所在地／南島原市南有馬町丁133 TEL:0957-85-3155
- URL／<http://www.harajoumasago.jp/>

C 板倉重昌の碑



①

板倉重昌は、一揆をしずめるため幕府軍の総大将として派遣されましたが、1638年に自ら原城跡に攻め込み戦死しました。現在設置されている供養碑は1681年に製作されましたが、幕府に許可されなかったこともあり、現在地に設置されたのは1797年でした。

D 湯島を望むビューポイント



①

原城跡の東側の有明海に浮かぶ湯島は、一揆勢の首謀者がしばしば会議を開いたことから「談合島」とも呼ばれています。湯島の談合の際には、益田四郎を一揆の総大将にすることが決定したとの記録も残っています。湯島には、島の頂上に「談合嶋之碑」が建てられ、キリシタン墓碑も2基確認されています。

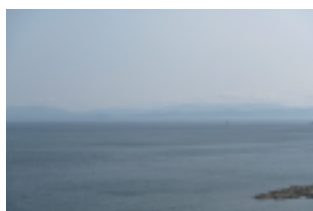
E ホネカミ地蔵 じぞう



①

ホネカミ地蔵は、一揆の約130年後の1766年、北有馬村がふしんじ願心寺の住職や南有馬村の地域の代表者らが、原城跡に残されていた遺骨を敵味方なく拾い集め、供養した地蔵塔です。

F 天草を望むビューポイント あまくさ の ぞ



①

原城跡本丸からは、東から南側にかけて天草諸島を望むことができます。天草地方の住民は海を渡って島原・天草一揆に参加しました。

G 天草四郎の碑 あまくさしろう ひ



①

総大将として一揆軍を率いた益田四郎ますだしろうの碑です。両親は天草の大矢野出身で、父親の益田甚兵衛ますだしんべゑはキリシタン大名である小西行長こにしゆきながの家臣でした。南島原市西有家町にしありえの民家の石垣に使われていたものが、ゆかりのある原城跡に移設されました。

H 佐分利九之丞の墓碑 さぶりきゅうのじょう



①

佐分利九之丞は、鳥取県の池田家の家臣で、一揆の使者として派遣された人物です。幕府軍の総攻撃にあたり、先陣をきって進撃しましたが、本丸において遂に倒れました。彼は刀を採り、傍らにあった自然石に自らの姓名と年月を彫り込んだものと伝えられ、その自然石がそのまま墓碑となっています。

I 鈴木重成建立供養碑



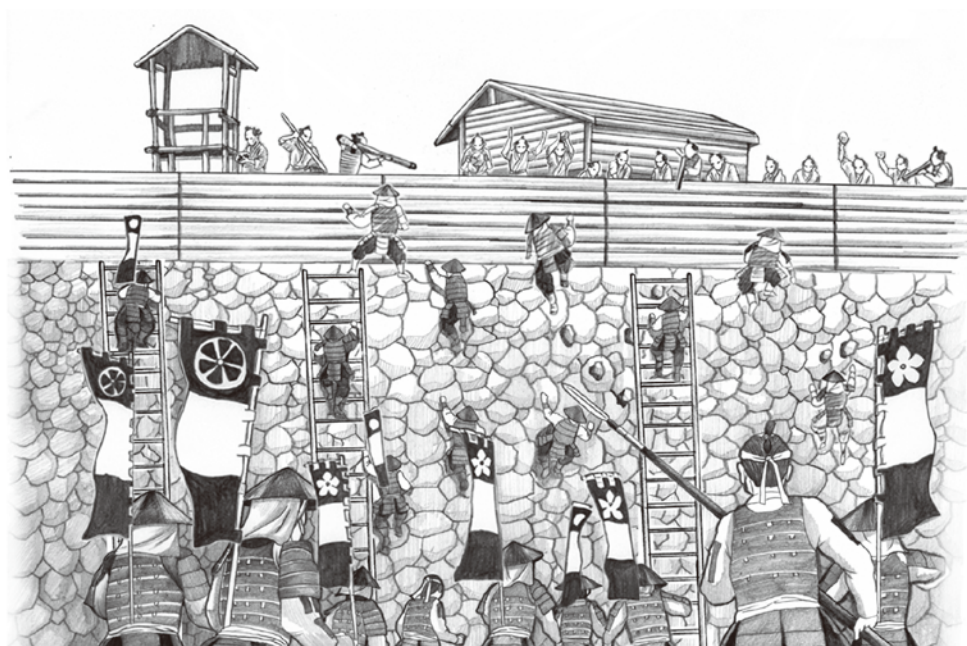
①

この供養碑は、一揆の後天領になった天草の初代代官で、一揆にも参加した鈴木重成が、一揆の10年後に建立したものです。この辺りでは、一揆の際、幕府軍と一揆勢が会談を行ったという記録が残っている場所でもあります。

J 本丸を望むビューポイント



本丸は、海岸段丘の上に存在しており、切り立った断崖は30mの高さです。原城が軍事的に海を意識した場所に築かれたことがよくわかります。



※イラストはイメージです。

ひのえじょうあと
日野江城跡



Ⓔ

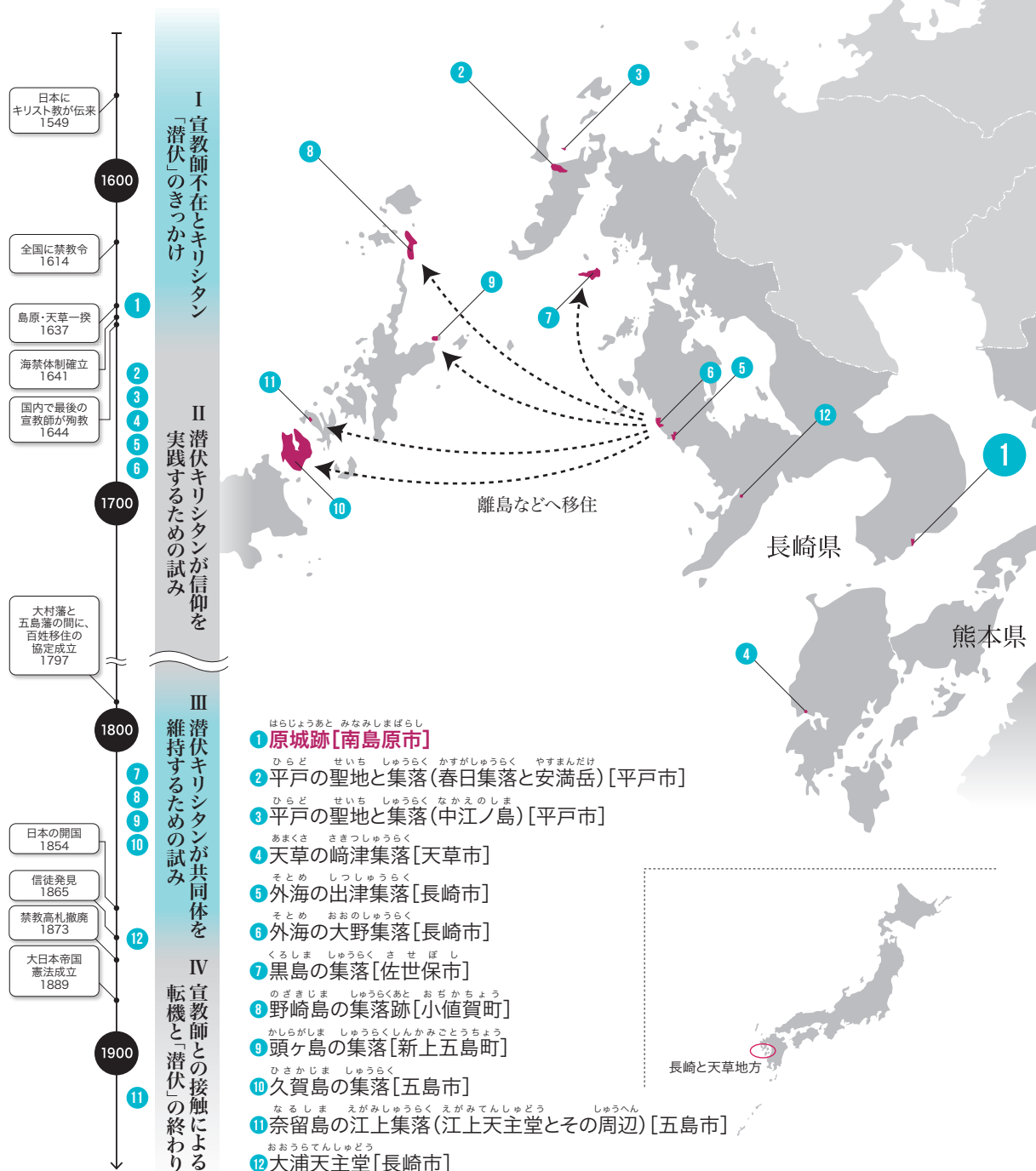
自然地形を利用した日本式の山城で、有馬氏の居城跡です。キリシタン大名有馬氏と宣教師との交流の舞台であり、有馬地域に形成されたキリシタンの共同体と密接に関わった代表的な遺跡です。

《基本情報》

文化財の名称	日野江城跡
種別	史跡
指定年	1982年
所在地	南島原市北有馬町



※イラストはイメージです。



「原城跡」に関するお問い合わせ

南島原市 企画振興部 世界遺産推進室

〒859-2211 長崎県南島原市西有家町里坊96-2 TEL:0957-73-6706

【HP】<http://www.city.minamishimabara.lg.jp> 【MAIL】sekaiisan@city.minamishimabara.lg.jp

企画・発行／長崎県、熊本県、長崎市、佐世保市、平戸市、五島市、南島原市、小値賀町、新上五島町、天草市

潜伏キリシタン遺産

検索

<http://kirishitan.jp>

撮影協力／①池田 勉、④日暮 雄一 2018年7月発行